

図書館かがわ

香川県立図書館報 第122号

Library Kagawa



発行日 2019.1.1

ISSN 1344-5464



木の観察会



書庫見学



カウンター体験

大人も子どもも図書館探検「木の観察会」を開催しました。

平成30年10月21日（日）、大人も子どもも図書館探検「木の観察会」を開催しました。

前半は親子での参加者21名（小学生11名、保護者10名）を対象に、書庫見学と、児童資料コーナーでカウンター体験を行いました。書庫のハンドル式移動書架を動かしたり、家族で協力して本探しをしたほか、カウンターでは子どもたちに本の貸出手続きを体験していただきました。

続いて、木の観察会では、大人の参加者が加わり、樹木医の高橋瑞貴先生と一緒に図書館の庭を散策しました。この日の観察会のために作成された「木のずかん」を手に、樹木の解説とともに、食用や薬としての利用など、身近な生活に関連したことをわかりやすく楽しく学びました。参加者全員でどんぐりを探す場面もあり、大変盛り上がりしました。

後半は大人の参加者に、当館の概要・歴史の説明や、普段は見ることのできない書庫をご覧いただきました。参加者の皆様は熱心に説明に聞き入り、興味深い様子で貴重な資料を手にとっていました。

参加者からは「楽しかった。機会があれば、また参加したい。」「普段は木を見ていなかったけれど、色んなことを教えてもらって興味をもった。」などの感想をいただきました。

◆「平成30年度第1回 健やか生活応援講座」を開催しました◆

11月18日(日)に「がんと生きるための生活のヒント」というテーマで「がん」との共存について考えるための講座を、香川県健康福祉総務課と連携して開催しました。

最初に、健康福祉総務課の古川副主幹から香川県における「がん」の現状の説明があり、その後、香川労災病院がん相談支援センター医療ソーシャルワーカーの伊原志乃さんと「がん患者会ネットワーク香川」副会長兼事務局長の藤田純子さんから、早期発見やセカンドオピニオンの大切さ、治療する場合は一人で悩まず相談するなど、これまでのお二人の経験に基づいた、医療側と患者側からの話をお聞きすることができました。

参加者からは、「がんについての正しい知識を得ることができてよかった。」「相談できるところを知ることができて、少し気持ちが楽になった。」などの感想がありました。

次回は2月9日(土)に「ハートの『SOS』がきこえますか?～心臓の健康を保つ秘訣とは～」という講座を予定しています。

皆様お気軽にご参加ください。



レファレンス日誌から 第3回

～「金毘羅さんの『天狗の面』?」の巻～



ある日、小さなお子さん連れの方から「金毘羅さんで売っているお土産の天狗の面について知りたいんですけど。」と尋ねられました。そう言い終えられた途端、お子さんがぐずりだし、外へ出て行かれました。「金刀比羅宮にそんなお土産売っていたかな?」と琴平町や金刀比羅宮関連の本を見るも、うまく探せません。

しばらくして、戻って来られたその方に「金毘羅さんの天狗の面をどこでお知りになったのか。」とお尋ねすると、「よく分からないんですけど、テレビを見ていたら、昔の人が金毘羅さんへのお参りのときに天狗の面を背負っている様子を描いた絵図が紹介されていたんです。だから、お土産で買ったものなのかと思って。」とのことでした。

そこで、「お土産」から離れて、改めて探してみると、江戸時代には、天狗の面を背負って阿弥陀などを唱えながら、施米(せまい)を集める「金毘羅行人」(こんぴらぎょうにん)という「天狗信仰」の信者がいたとのこと、そういった人物が絵図に描かれていたことが判りました。

レファレンスカウンターに来られた方は、初対面の司書にご自身の知りたいことについて、すべて話して下さるわけではないので、こちらから質問して本当に知りたいことを明確にする必要があります。図書館ではこれを「レファレンスインタビュー」と呼んでいます。これが上手く行かないと調査も上手く行かない場合があります。

カウンターでのレファレンスインタビューの大切さを感じた出来事でした。

<参考文献>

- ・「お山信仰と天狗考」大崎上定一著(『こと比ら no. 16』琴平山文化会/編 所収)
- ・『金毘羅庶民信仰資料集 第1巻』日本観光文化研究所/編 1982 (K1759/N2/1-1)
- ・『金毘羅信仰』守屋毅/編 1987 (K1759/M6)



この本オススメです！

～2019年の話題の本～

2019年が始まりました。今年はどのような年になるのでしょうか。新しい元号が始まる、消費税率が変わる、様々な物事が周年記念を迎えるなど、盛りだくさんな一年になりそうですね。

そんな今年、話題になりそうなことに関する本を3冊ご紹介します。1冊目は元号についての本、2冊目は大河ドラマのあの人についての本、3冊目は2019年にアニバーサリーを迎える人の本です。

これらの本に、「もう去年の段階で目をつけていたよ。」という人はお目が高い！知っている方も知らない方も手に取っていただければと思います。

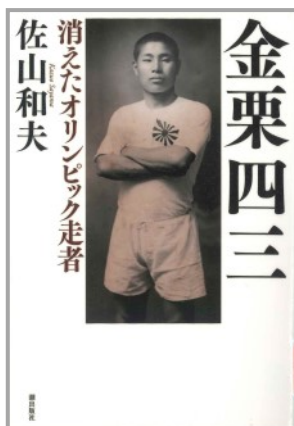


『元号 年号から読み解く日本史』

所 功, 久禮 旦雄, 吉野 健一 / 著 (文藝春秋)
2018.3 (請求記号: 21002/T17/3)

2019年の話題といえばやはり、新元号ですね。平成の後にはどんな元号になるのか気になっている人も多いのではないのでしょうか。

本書は、今までの元号の成り立ちやその時代背景と、新元号がどのように制定されるのか予測されるプロセスについて書かれています。巻末には、今回使われるかもしれない年号候補なども掲載されています。新元号を予測しながら読み進めるのも楽しいかもしれませんね。

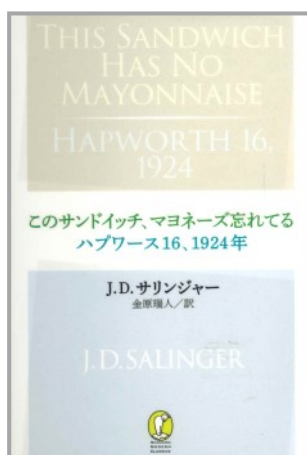


『金栗四三 消えたオリンピック走者』

佐山 和夫 / 著 (潮出版社)
2017.12 (請求記号: 7823/K14/2)

東京オリンピック開催を見据えて、大河ドラマ「いだてん～東京オリンピック噺～」の放送が始まります。主人公の一人、金栗四三は初めてオリンピックに参加した日本人であり、「消えたオリンピック走者」、「箱根駅伝の父」と呼ばれています。

本書では、金栗が「消えたオリンピック走者」となったいきさつを考察しながら、オリンピックでの失敗を彼がその後の人生でどのように昇華していったのかを描いています。



『このサンドイッチ、マヨネーズ忘れてる ハプワース16、1924年』

J.D.サリンジャー / 著, 金原 瑞人 / 訳 (新潮社)
2018.6 (請求記号: 9330/S82/6)

『ライ麦畑でつかまえて』などで知られる、アメリカ人作家のJ. D. サリンジャーは今年生誕100年を迎えます。

本書は、アメリカでは単行本化されなかった幻の作品群を金原瑞人の新訳で収録した短編集です。デビュー作から最後の作品まで、作品世界の変化を味わうことができます。既に単行本化されている『ライ麦畑でつかまえて』や『ナインストーリーズ』などと読み比べるのもいいかもしれません。

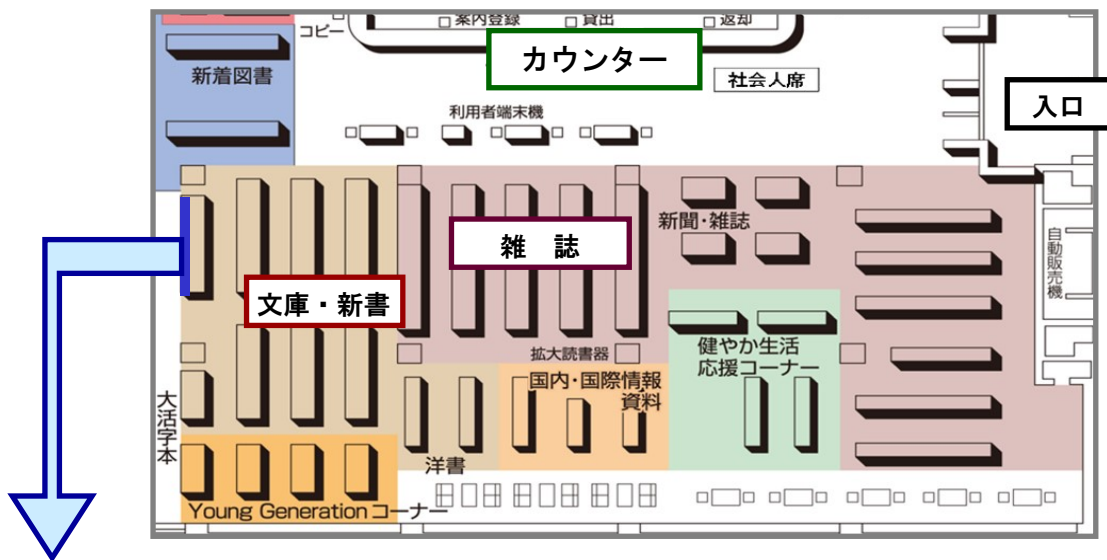
●文庫が利用しやすくなりました●

これまで閲覧室の一般資料コーナーのそれぞれの分類のところに並べていた文庫本を文庫コーナーに集めました。

集めた文庫本は、文庫コーナーの書架番号7の棚に「その他の文庫」としてまとめて、請求記号順に並べています。

新潮文庫、岩波文庫など従来から文庫コーナーに配架している文庫と一緒にご利用ください。

(文庫コーナー付近見取り図)



●文庫コーナーに移動した文庫

- ・ 講談社文庫
- ・ 集英社文庫
- ・ 徳間文庫
- ・ 角川文庫
- ・ ちくま文庫
- ・ ハルキ文庫 など

●従来から文庫コーナーにある文庫

- ・ 新潮文庫
- ・ 文春文庫
- ・ 中公文庫
- ・ 河出文庫
- ・ 講談社英語文庫
- ・ 講談社学術文庫
- ・ 講談社文芸文庫
- ・ ハヤカワ文庫
- ・ 岩波現代文庫
- ・ 岩波文庫

★ご不明な点はカウンターでお尋ねください。

編集・発行 香川県立図書館

〒761-0393 高松市林町2217-19 (香川インテリジェントパーク内)

TEL 087-868-0567 FAX 087-868-0607

<https://www.library.pref.kagawa.lg.jp/>